

タヌキモと思われるもの一が分布していて、後者は明らかに開花の生理も異なっていることを数年の観察からつかむことができた。

コタヌキモについては浅水型・深水型が見られ、垂直的に見ると水深2cm-1.5mまでの最深部まで見られる。最深部の深水型でもほとんどちぎれて浮上することはなく、地下部の補虫のうは大きい。

アリノトウグサ科-ホザキノフサモ (多産する)
 スイレン科-エゾノヒツジグサ (極く普通に分布)
 ヒルムシロ科-エゾノヒルムシロ・リュウノヒゲモ
 オトギリソウ科-ミズオトギリ (普通に分布)

トチカガミ科-セキショウモ (極く普通に分布)・クロモ (少ない) ……後者は個体数は少ないが確実に分布することを確認している。

オモダカ科-ヘラオモダカ (極く普通に分布)・アギナシ (少ない)

カヤツリグサ科-フトイ (北東岸部に群落あり)

スギナモ科-スギナモ ……個体数は少ないが、確実に分布すること確認している。東南岸に分布を確認。なお、かつてこの東南岸のヤチャナギ群落の中で本種の気中に産するものを見たが、現在は消失している。その状況まさに佐藤潤平 (1942) が示す

興安省満洲産の植生状況写真および線描画に相同のものであった。

おわりに

弁天沼の水生植物については、ほんの貧弱な観察を主に報告したに過ぎないもので、来年の本格的な調査によって全沼の水生植物を標本を付して報告することを予定しています。末筆になりましたが、本報告につき標本の同定、分布について種々お世話いただいた神戸大学教養部の角野康郎博士に心から感謝の意を表します。

文献

上野雄規 (1991) : 北本州産高等植物チェックリスト、東北植物研究会。
 橘ヒサコ・伊藤浩司 (1980) : 勇払湿原の植物生態学的研究、環境科学・北海道大学大学院環境科学科研究紀要 第4巻 第1号 別刷。
 大滝末男・石戸 忠 (1980) : 日本水生植物図鑑、北隆館。
 佐藤潤平 (1942) : 満洲水草図譜、三省堂。
 大井次郎・北川政夫 (1983) : 新日本植物誌 顕花編、至文堂。

これは何ぞや-正体不明の水生植物

外山雅寛

北海道江別市八幡から正体不明の水生植物が採集された。外観はスケッチに示した通りで、これまでの既知日本植物のうちではイチョウウキゴケ *Ricciocarpus natans* (L.) Corda に最も近縁な植物と思われる。イチョウウキゴケはイチョウウキゴケ属 *Ricciocarpus* Corda 中で唯1種の既知日本産種で、保育社刊「原色日本蘚苔類図鑑」(服部新佐他)では、その分布(国内)は、本州-琉球となっており、大滝末男著「日本水生植物図鑑」では、「北海道」も含まれている。しかし、筆者は北海道では1度もこの植物に出会ったことがない。

数種の図鑑でイチョウウキゴケとの比較を行ってみたが、それと同1種の植物とはとても考えにくい。葉状体の基部より中心に濃紫色の太いすじが走り、途中で2又に分かれている。

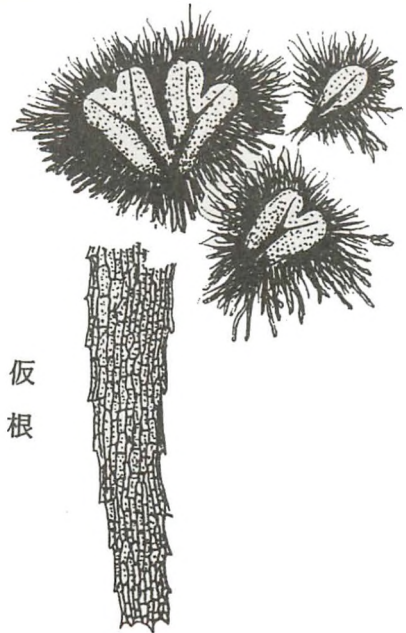


図 イチョウウキゴケに

葉状体はスポンジ状で、裏面にはイチョウウキゴケと同様な紫色のリボン状鱗片を多数下垂、鱗片葉の形態はイチョウウキゴケに酷似しているが縁鋸歯はイチョウウキゴケよりも浅い。植物体の大きさはイチョウウキゴケとほぼ同大である。イチョウウキゴケの変種のようなものである。

北海道での採集は最初なので、極少の植物であることは間違いない。昨年採集のものを培養していたが、自生地が様変わりしたため、再確認することができていない。広い北海道のことであるから、どこかにまだ自生地があるものと思われる。

ナガエツルノゲイトウ印旛沼に多産

齊藤吉永

下総、印旛沼畔にキク科のサクラオグルマ *Inula*

yosezatoana Makino の撮影にでかけたが、天候が不安定で小雨がぱらついたりして1日を棒に振り、2日後の1992.10.3に再度印旛沼を訪れた。やはり天候が悪く帰り支度くをして身軽になって近くを歩いてみた。

マンジュシャゲが水田の畦を濃紅に飾り、ピンクのサクラタデ、白色のナガボノシロワレモコウが驚く程沢山咲いていて、どこからかカントンの鳴く声が流れていた。

場所を移動して沼辺を歩くとな妙な花を着けた草の一群を見つけた。ヒシやオオカナダモ、ササバモ、ドチカガミも近くに見られる場所で、1本を水から引き上げて観察したが名前が判らず、写真を撮ってから若干を標本用に採集した(佐倉市舟戸)。今度は橋を渡って沼の反対側に廻り良くカワセミの姿を見た場所に寄って見た。

このあたりはホテイアオイとドチカガミが大繁殖しているばかりであったが、釣り人のよく歩くマコモやコガマが繁りアレチウリに覆われた水辺で同じ植物を見た(印旛村師戸)。

2ヶ所共3㎡程の面積に繁茂していた。これも若干採集して帰宅後調べてみたが、僅か中国の植物図鑑に似たものがあるだけで、水草研究会報をくって見ると1992刊会報No.46に内山寛氏外5氏の報文『1989年度日中協同研究による中国華中地方における水草の観察』の3頁の写真にもあって見当がついたものの、自信がなく角野康郎氏に御教示をお願いした。

早速角野氏から文献のコピーまで添えて細かい御教示を得た。これで始めてナガエツルノゲイトウ *Alternanthera philoxeroides* (Mart.) Griseb. であることが判った。

1992.10.4に別の用事で印旛沼にでかけ少し足を伸ばして作家吉川英治氏の母堂の生家のある佐倉市江原地先の鹿島川畔に大群落があって驚かされた。この川畔には吉川英治氏の歌碑があってその写真を撮っているときに眼についたのである。

計測したわけではないが100mにわたって繁殖していて面積にすると80㎡位であろうか。

この付近にはキンガヤツリも数株生えていた。印旛沼を舟で精査するならもっと広く繁殖していることが判明するであろう。とにかく下総印旛沼にナガエツルノゲイトウが帰化していることを報告したい。

終りに資料まで添えて御教示賜った角野康郎氏に心から感謝の意を表したい。

(1992.10.20)



写真 印旛沼のナガエツルのゲイトウ